

田んぼってスゴイなあ！

～ 田んぼの色々な役割を知ろう！～

役割その1 「作る・育む」

米どころ「宮城県」では、たくさんの田んぼでお米が作られています。

大きな区画に整備された田んぼでは、お米以外にも大豆や麦などが
つくられ、私たちの毎日の食卓を支えています。

田んぼはカエルや魚・昆虫そして鳥など生きものたちが
産卵し、餌を取り、生育していく上で大切な場所でもあります。

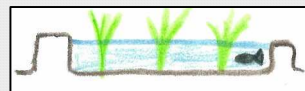


役割その2 「防ぐ・守る」

田んぼは大雨が降った時に、一時的に雨水を蓄えることにより、洪水を防いで
います。

1枚の田んぼではわずかでも、田んぼ全体で考えると大きなダムのような
働きをしています。

でも、田んぼで作物をつくらないとこの働きは発揮できません。田んぼが
国土と私たちの暮らしの安全を守っています。



役割その3 「癒す・学ぶ」

美しい景色や自然、そして安らぎを求めて多くの人々が里山を訪れます。

田んぼが広がる里山での暮らしには、昔から引き継がれてきた地域の
文化が今も生きており日本の原風景とも呼ばれ心や体が癒される
という人がたくさんいます。

最近では田んぼでの生きものとのふれあいや農や食の文化を学べる

『田んぼの学校』の活動が広がっています。

「田んぼの学校」では、田んぼでの農作業や農村の暮らし、自然環境の大切さを体験できます。



田んぼってスゴイなあ！

～ 田んぼ知っとくクイズで遊ぼう！～

これから、田んぼ知っとく ×クイズ を始めるよ！

正しいと思ったら、間違いと思ったら × で答えてね！

クイズ

宮城県の田んぼで収穫されるお米の量は、県に住んでいる人が一年間に食べるお米の量の3倍である。

宮城県のレッドデータブックで準絶滅危惧種に指定されているメダカは、田んぼや水路で卵を産む。

宮城県の田んぼに貯まる雨の量は、県内で一番大きい「七ヶ宿ダム」の2倍以上である。

宮城県の田んぼやその周辺では、50種類以上の魚が確認されている。

宮城県の田んぼには、作物を作る働き以外に洪水を防ぐ働きのほか、動物や植物のすみかになっていたり人々にやすらぎを与えたり、さまざまな働きがある。

知っとくデータ

宮城県で収穫されるお米の量は毎年およそ42万トン。これは、700万人が1年間に食べるお米の量に相当し、宮城県全人口の3倍もの人たちの食を支えているんだよ！（1トン=1,000kg）

メダカは、学名を「*Oryzias latipes*」（ギリシャ語で「稲の周りにはいるヒレの広い魚」）、イギリスでは「ライス（=米）フィッシュ（=魚）」と呼ばれ、田んぼに深く関わって生活している魚なんだよ。

宮城県の田んぼ面積は11万ヘクタール。仮に20cmずつ雨水を蓄えた場合、その量は2億2千万立方メートル。県内で一番大きい「七ヶ宿ダム」の2倍以上の水を溜めることができるんだ！

宮城県では平成13年度から県内の約460地点で生きもの調査を実施してきました。その結果53種の魚、9種のカエルなどが確認されました。何種類の生きものを見つけたことがあるかな？

いろいろな働きを田んぼに行き行って確かめてみよう！！

回答

答えは全てです。知っとくデータで確かめてね！

平成19年12月

作成：宮城県農業農村整備・広報広聴活動推進委員会
田んぼの生きものマップ作成ワーキンググループ